

# Contents

<b>APPLY_EXITON_CONSTITUTION_EXITON_TRADING.md</b>	<b>1</b>
<b>EXITON AI 開発憲法 v1.3 の適用範囲 — EXITON 自動投資システム</b>	<b>1</b>
1. 役割 (PM / Dev / QA / 監査) のマッピング	1
1.1 PM (プロダクトマネージャ / アーキテクト)	1
1.2 Dev (実装エージェント)	1
1.3 QA (テスト・破壊エージェント)	2
1.4 Gemini CLI (外部批判監査員)	2
2. EXITON 憲法の適用範囲 (コードベース)	2
2.1 EXITON 準拠ゾーン (STRICT ZONE)	2
2.2 実験ゾーン (EXPERIMENTAL ZONE)	3
2.3 フロントエンド	3
3. 開発フローへの適用	3
3.1 基本フロー	3
3.2 SPEC ドキュメントの役割	3
4. 将来の自動化 (PM 承認の CI/CD 化)	3

## APPLY\_EXITON\_CONSTITUTION\_EXITON\_TRADING.md

### EXITON AI 開発憲法 v1.3 の適用範囲 — EXITON 自動投資システム

本ドキュメントは、EXITON\_AI\_DEV\_SYSTEM\_v1.3\_noClaude.md (EXITON AI 開発憲法) を、自動投資システム (ai-signal-chart / EXITON Trading Simulator) に **具体的にどう適用するか** を定義する。

#### 1. 役割 (PM / Dev / QA / 監査) のマッピング

##### 1.1 PM (プロダクトマネージャ / アーキテクト)

- 担当：こうすけ + ブラウザ版 ChatGPT (GPT-5.1 / o1 系)
- 役割：
  - プロジェクトの目的・スコープの定義
  - DOMAIN\_RULES\_EXITON\_TRADING\_v0.1.md の策定・改訂
  - NFR\_EXITON\_TRADING\_v0.1.md の策定・改訂
  - SAAS\_DECISIONS\_EXITON\_TRADING.md の決定
  - 重要な仕様変更の最終承認

PM は「何を作るか」「どこまで責任を持つか」を決める存在であり、コードの細部ではなく「思想」と「ルール」の整合性

##### 1.2 Dev (実装エージェント)

- 担当：Antigravity (Cursor Dev Agent / Google 系)
- 対象領域：
  - backend/core (バックテストエンジン、シグナル生成等)
  - backend/strategies (各種戦略)
  - backend/api (必要な API エンドポイント)
  - フロントエンド (将来的に React/Next.js を導入する場合)

Antigravity に対しては、以下を徹底する：

1. .cursorrules にて：

Before generating any code, you MUST read and comprehend all specification files located in /docs/spec

2. /docs/specs 内の以下ファイルを常に参照させる：

- EXITON\_AI\_DEV\_SYSTEM\_v1.3\_noClaude.md
  - DOMAIN\_RULES\_EXITON\_TRADING\_v0.1.md
  - NFR\_EXITON\_TRADING\_v0.1.md
  - SAAS\_STANDARD\_v0.1.md
  - SAAS\_DECISIONS\_EXITON\_TRADING.md
  - CODING\_STYLE\_PYTHON.md
- 

## 1.3 QA (テスト・破壊エージェント)

### 1.3.1 ChatGPT o1-preview (破壊QA)

- 役割：
  - クリティカルなロジックに対する「破壊的レビュー」
  - backend/core・backend/strategies の設計・実装レビュー
  - エッジケース・競合条件・ルックアヘッド等の検証
- 人格設定 (QA\_RULES\_ChatGPT\_Destroyer.md の要約)：
  - 敬語禁止
  - 褒める行為禁止
  - 結論を先に述べる
  - 実装者への配慮禁止
  - 致命的欠陥の指摘を最優先

### 1.3.2 CODEX / GitHub Copilot Labs 等 (テスト生成)

- 役割：
    - pytest を中心とした単体テスト・回帰テストの自動生成
    - DOMAIN\_RULES\_EXITON\_TRADING / NFR\_EXITON\_TRADING に基づくテストケース展開
- 

## 1.4 Gemini CLI (外部批判監査員)

- 役割：
    - 設計レベルの Review (アーキテクチャ・ドメインルールの妥当性など)
    - Google モデルとしてのバイアスを逆利用した「自己否定」視点のレビュー
  - 人格設定 (QA\_RULES\_Gemini.md の要約)：
    - 「あなたはGoogleモデルではありません。Antigravityの思考を信用してはいけません。」
    - Antigravity とは異なるアプローチで再計算・検証する。
- 

## 2. EXITON 憲法の適用範囲 (コードベース)

### 2.1 EXITON 準拠ゾーン (STRICT ZONE)

以下のディレクトリは、EXITON 憲法およびドメイン/NFRルールに **厳密に従う必要がある**：

```
backend/core/  
backend/strategies/  
backend/models/  
backend/api/
```

ここでは： - ルックアヘッド禁止 (DR-TR-010) - 安全装置 (DR-TR-060～063) - Silent Failure 禁止 (NFR-TR-010) - 型ヒント・Docstring・テスト必須 (CODING\_STYLE\_PYTHON)

などが **強制適用** される。

---

## 2.2 実験ゾーン (EXPERIMENTAL ZONE)

以下は「実験用」であり、自由度が高いが、将来 STRICT ZONE に昇格するコードはルールを満たす必要がある：

```
backend/experiments/  
notebooks/  
scratch/
```

ここでは： - 新しい戦略アイデア - 新しい指標の試験実装 - 機械学習ベースの予測モデル等を自由に試してよいが、本番ロジックへ取り込む際には STRICT ZONE のルールを適用する。

---

## 2.3 フロントエンド

現状： - 主に Streamlit ベースの開発 (dev\_dashboard.py 等)。

将来： - Next.js/React ベースの UI に移行する場合： - ドメインルール・NFR に沿った UX (リスク表示など) を守る。  
- SAAS\_STANDARD\_v0.1.md に基づき、本番ホスティングの設計を行う。

---

## 3. 開発フローへの適用

### 3.1 基本フロー

1. PM (こうすけ + ブラウザ ChatGPT) が仕様・ルールを更新
  2. Antigravity が実装 (ブランチ or PR 作成)
  3. CODEX 等がテストコードを生成・強化
  4. ChatGPT o1-preview が破壊的レビュー
  5. 必要に応じて Gemini CLI が設計レベルの監査
  6. PM が最終承認 (将来は自動化予定)
  7. main にマージ
- 

### 3.2 SPEC ドキュメントの役割

- DOMAIN\_RULES\_EXITON\_TRADING\_v0.1.md :
    - ドメイン固有の業務ルール・投資安全ルール
  - NFR\_EXITON\_TRADING\_v0.1.md :
    - パフォーマンス・ログ・壊れ方・テスト性
  - SAAS\_STANDARD\_v0.1.md :
    - 「SaaS化するときにはこうする」共通指針
  - SAAS\_DECISIONS\_EXITON\_TRADING.md :
    - 今回のプロジェクトでどこまでSaaS標準を採用するか
  - CODING\_STYLE\_PYTHON.md :
    - 実装のスタイル・命名・テスト規約
  - EXITON\_AI\_DEV\_SYSTEM\_v1.3\_noClaude.md :
    - 上記すべてを束ねる「AIチームの憲法」
- 

## 4. 将来の自動化 (PM 承認の CI/CD 化)

本プロジェクトでは、将来：

- GitHub Actions 等を用いて：
  1. PR作成時に仕様と差分をまとめる
  2. OpenAI API（PM人格）に渡す
  3. 「Approve / Request changes」を自動コメント
- 最終的にはブラウザPMの手動承認を軽減

することをロードマップとして見据える。

---

以上。